

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 36 週 2025 年 9 月 1 日 ~ 2025 年 9 月 7 日

今週のコメント

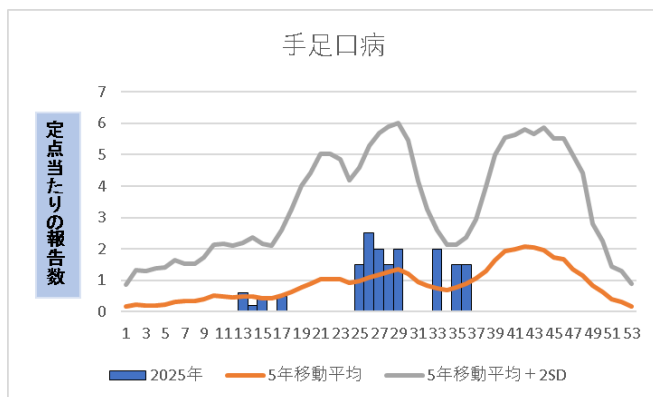
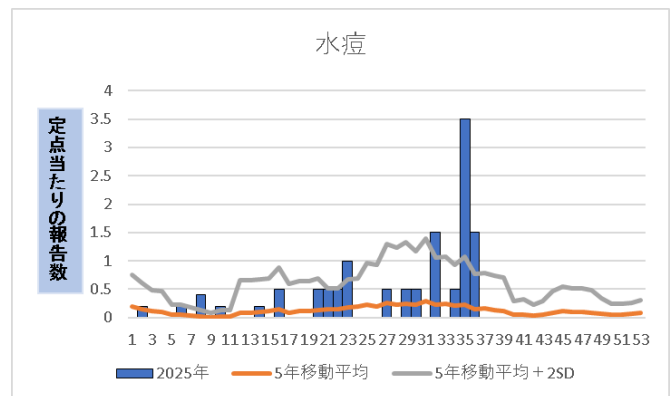
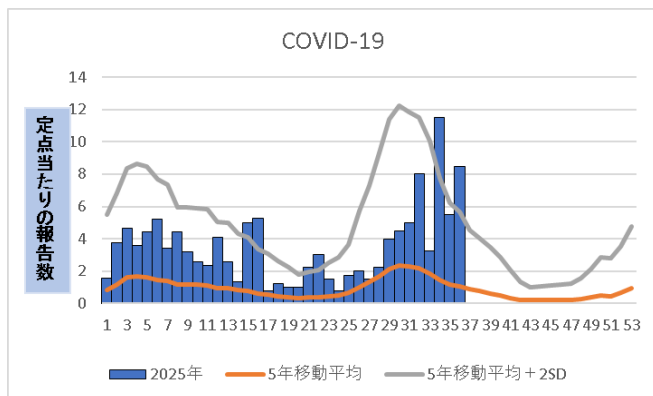
南丹保健所管内では、水痘が警報レベル継続中です。

京都府全体(京都市以外)では、伝染性紅斑(リンゴ病)が警報レベル継続中です。

2025 年第 36 週の報告です。

- 新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 8.50(前週 5.50)、京都府 8.55(前週 8.31)となっています。
 - 水痘の定点あたりの報告数は南丹 1.50(前週 3.50)、京都府 0.40(前週 0.35)となっています。
 - 手足口病の定点あたりの報告数は南丹 1.50(前週 1.50)、京都府 0.45(前週 0.35)となっています。
 - 全国的に百日咳(全数報告疾患)の流行が継続しており、府内でも報告が続いています。第 36 週においては南丹保健所管内で 0 件(前週 0 件)、府内で 12 件(前週 19 件)報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実に行いましょう。
- 京都府の百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。
百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。
- 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

京都府全体でインフルエンザが流行期に入りました！

京都府では、第 36 週に流行開始の目安である定点あたり報告数 1 超えて 1.19 に達し、全国よりも早い流行入りとなりました。南丹保健所管内では、第 36 週にインフルエンザの報告はありませんでした。

インフルエンザは例年、秋から冬に流行が始まり、冬にピークを迎え、春ごろに収束する流れを繰り返しています。京都府での流行開始の時期は 9 月～12 月と年によって幅があります。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。

予防で大切なことは、手洗い、適切な湿度の保持、十分な休息とバランスの取れた栄養摂取などです。また、人混みの多い繁華街等への外出も控えましょう。

京都府のインフルエンザ流行状況は[こちら](#)をご覧ください。

各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.36w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	0.00	→	0.00
新型コロナウイルス感染症				8.50	↗	5.50
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	→	1.00
感染性胃腸炎	20	12		1.00	↗	0.50
水痘	2	1	1	1.50	↘	3.50
手足口病	5	2		1.50	→	1.50
伝染性紅斑	2	1		1.00	→	1.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.50	↗	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 36 週報告数は 240 件(定点当たりの報告数:60.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)